

2020年9月23日

声明文

片岡春雄町長による町民への裏切り行為に抗議します

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

2020年9月10日、263名の町民が参加した町民説明会（本町地区）において、高レベル放射性廃棄物最終処分場選定の文献調査をどうすれば止めてもらえるのかと問われた片岡春雄町長は、「町民の51パーセントが反対すれば」と返答した。私たちは、その数字を目指して署名活動をさらに行っていこうと決意したが、5日後の15日の町民説明会（樽岸地区）の終了後、報道陣の囲み取材において、「核のゴミを持ってくるがごとく署名運動をしている。（文献調査応募とは）趣旨が違う。悩ましい」と述べたという（9月16日付北海道新聞）。

事実上の発言撤回である。署名用紙には、「文献調査の応募に撤回を求める、寿都町へ働きかける運動に賛同し署名をいたします」と明記されており、この署名が、文献調査に反対するものであることは、町民には明らかである。片岡町長の発言は、意図的に署名運動の主旨を捻じ曲げている。都合が悪くなった自らの発言は撤回し、町民の意思は自らの都合にあわせ、捻じ曲げて解釈しようとする片岡町長に、私たちは強く抗議する。

また、9月18日、NHKが非公開の町議会の全員協議会の議事録を入手し、「当初は8月中にも応募決定の方針」だったというスクープ報道を行った。その内容は、私たちの想像を超えるものであった。いま、報じられている内容だけでも、議事録で明らかになった町長の発言には、次の4つの大きな問題があると考えている。

（1）最終処分場を受ける意思がないのに、文献調査や概要調査のみを受け入れ、お金だけもらう意思を明確にしている。これは、国や国民を相手にした詐欺行為と言える。

（2）8月中にも文献調査に応募する意思だったこと、住民説明会を行う意思がなかったことが明らかになった。これは、町民への裏切り行為であり、地方自治における住民の権利侵害である。各地区で行われていた住民説明会では、「私も分からないから、一緒に勉強しましょう」と片岡町長は繰り返していたが、そんな意思はなかったということが明白になった。また、「片岡を信頼して欲しい」と述べていたが、まったく信頼できないことが分かった。

（3）「資源エネルギー庁の官僚をくすぐった中で、洋上風力を浮上させる」という発言は、資源エネルギー庁に対して礼を失するものといえる。また、洋上風力発電所を建設するためには、周辺漁業組合や周辺町村の協力は不可欠となるが、周辺漁業組合や周辺町村に

募への反対・憂慮の意見を出された現在、洋上風力発電の実現はかえって遠のいたのではないか。片岡町長は、政治的取引に失敗したことを認めるべきである。

(4) 知事との面談や町民説明会では、核のゴミの議論の必要性を盛んに説いていたが、議事録では、協議会において、そのような議論がなされていたように見受けられない。

以上のことからだけでも、片岡町長の発言は、完全に町民を無視し、町民の信頼を裏切るものであり、また、国や省庁への背信行為を寿都町長として独断的に行うことで、寿都町民の名誉を著しく損なっている。

片岡町長はそれを認め、まず全町民に謝罪するべきである。また、このような、あってはならない町民無視と町民への裏切りのもとに町長が行おうとしてきた高レベル放射性廃棄物最終処分場の文献調査への応募は直ちに断念すべきである。

なお、寿都町情報公開条例に基づき、私たちは早急に同議事録の公開を求める所存である。第7条「当該請求に係る公文書は、原則として開示しなければならない」とあることから、公開されることは間違いないと確信している。

私たちは、上記について、公開質問状を準備し、28日までに回答を要求することとした。

町民を裏切り、北海道や周辺町村を軽視し、ひたすら文献調査の応募に突き進もうとする片岡町長に、あらためて私たちは抗議する。